

#8 神は栄光のケルビムの間から語る

(民数記結晶の学び) 2019/4/15-21

I. 人が仲間と語るように、主は顔と顔を合わせてモーセと語りました: **出33:11** 人が自分の仲間と語るように、エホバは顔と顔を合わせてモーセに語られた。**民12:7-8** しかし、私のしもべモーセは…私の家全体において忠信である。彼には、私は口と口とで明らかに語って、なぞで話すことはしない。彼はまたエホバの形を見つめている。

A. 神とモーセは仲間、同僚、パートナーであって、同じ仕事にかかわり、大きな事業の中で共通の権益を持ちました。

B. モーセは神と親密であったので、神の心を知っている人、神の心になう人、神の心に触れることができる人でした。こういうわけで、モーセは満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていたのです。

C. 出エジプト記 24:15~18 において、モーセは至聖所におり、そこにはシェキナの栄光がありました:**1.** ホレブ山において異なる距離で立った、少なくとも三組の人がいました:**a.** 大部分のイスラエルの子たちは、山のふもとで遠く離れて立ち、震えていました。**b.** アロン、ナダブ、アビフ、七十人の長老たちは、山の上で遠く離れて礼拝し、見ていました。**c.** モーセは山頂にいて、神の栄光の下で神を注入され、神の地上の住まいとしての幕屋のビジョンを受けていました。

2. この三つの地点は、幕屋の三つの部分(外庭、聖所、至聖所)に相当し、神の民の間で、神との交わりに異なる程度があるという事実を説明します。**3.** 出エジプト記 24 章の、モーセが山頂で、神の栄光の下で、神から戒めを受けた原則は、民数記 7:89 の、モーセが集会の天幕の中で神と語った原則と同じです。**【月】**

II. モーセは集会の天幕に入って行って神と語ったとき、証しの箱の上にある罪を覆う蓋の上から、二つのケルビムの間から、彼に語る声を聞きました: **A.** 罪を覆う蓋は、神が恵みの中で彼の贖われた民と会い、彼らに語る場所としてのキリストを表徴します。**民7:89** モーセは集会の天幕に入って行ってエホバと語ったとき、証しの箱の上にある罪を覆う蓋の上から、二つのケルビムの間から、彼に語る声を聞いた。そして彼はエホバに語った。

B. 罪を覆う蓋の上のケルビムは、神の栄光を表徴し、「栄光のケルビム」と呼ばれています。こういうわけで、罪を覆う蓋の上のケルビムは、キリストが神の栄光を表現することを示しているのです:**1.** 二つのケルビムは罪を覆う蓋の一部でした。この事が示しているのは、神の栄光が、罪を覆う蓋としてのキリストから輝き出て、また罪を覆う蓋としてのキリストの上に輝いて、証しとなるということです:**a.** 神のこの現れ、神のこの栄光が、神の証しです。**b.** 二は証しの数です。神の栄光は神の証しとなります。**c.** キリストの上に、またキリストと共に、神の現れ、すなわち神の栄光があります。そして神の栄光であるこの現れが、神の証しです。**2.** ケルビムと罪を覆う蓋は、純金で作られました。この事が表徴するのは、神の栄光の輝きとしてのキリストの照らしが、神聖なものであるということです。

C. イスラエルの牧者であるエホバは、ケルビムの間に座しておられ、そこから光を放ちました。**詩80:1** イスラエルの牧者よ、耳を傾けてください。…ケルビムの間で御座に座しておられる方よ、光を放ってください。

D. 罪を覆う蓋の上から、証しの箱の上にある二つのケルビムの間から、神はモーセと会い、モーセと語りました:**【火】**

1. 神が罪を覆う蓋の上から、そしてケルビムの間から神の民と会い、彼らに語りかけたことが表徴しているのは、神がなだめるキリストの中で、また彼の証しとしてのなだめるキリストにおいて表現された栄光の中で、私たちと会い、私たち

に語りかけるということです。**IIコリント3:8-9** ましてその霊の務めは、栄光の中にないわけがありませんか? 罪定める務めに栄光があるなら、まして義とする務めは、なおさら栄光にあふれるのです。**2.** 神がケルビムの間から彼の民に語ることは、彼が彼の栄光のただ中で私たちに語ることを意味します。**3.** 神がその中で私たちと会い、私たちに語りかける栄光は、キリストの輝きです。**IIコリント4:6** なぜなら、「暗やみから光が照りいでよ」と言われた神は、私たちの心の中を照らして、イエス・キリストの御顔にある神の栄光の知識を、輝かせてくださったからです。**【水】**

4. ケルビムを伴う、なだめの場所、罪を覆う蓋は、私たちの親愛な主イエスご自身にほかなりません:**a.** 神が私たちと会い、私たちと語るときはいつも、この尊いキリストは私たちと共にいます。**b.** 実は、この輝くキリストの中で、神は私たちと会い、私たちと語ります。**ヘブル1:3** 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちであって、彼の力ある言葉によって、万物を維持し担っておられます。

5. 罪を覆う蓋と、その上に振りかけられた犠牲の血とが描写しているのは、人性における贖うキリスト(彼の法理的な贖い)と、神性における輝くキリスト(彼の有機的な救い)が、堕落した罪人が、義で、聖で、栄光の神と会うことができ、彼の言葉を聞くことができる場所であるということです:**a.** 罪を覆う蓋の上のケルビムは、キリストの神性を伴う輝きを表徴し、罪を覆う蓋の上に振りかけられた血は、贖いのための彼の人性を表徴します。今や私たちと神は、贖い輝くキリストの中で共に集まり、共に話すことができます。**【木】**

b. 罪を覆う蓋の上で、また神の栄光の輝きのただ中で、私たちは神の御声を聞き、彼の心の願いを知り、彼からビジョン、啓示、指示を受けることができます。**c.** 私たちは至聖所で主と会うとき、彼によって彼であるすべてを注入されます。

III. 至聖所にある箱の上の罪を覆う蓋は、ヘブル4:16の恵みの御座と等しいです: **ヘブル4:16** ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか。**A.** 私たちはキリストにある信者として、「イエスの血によって、大胆に至聖所へ入ります」:

1. 至聖所へ入ることは、大きな事柄です。なぜなら、そこには神がキリストの中で恵みの御座に座しているからです。

2. そのような場所へ入るために、私たちは大胆でなければなりません。私たちが大胆であることができるのは、キリストの死と彼の血によります。**3.** 私たちはいつでもイエスの血によって、大胆に至聖所へ入ることができます。

B. 今日、至聖所は主イエスがおられる天にあります。しかし、私たちはなおも地上にいますが、至聖所へ入ることができます:**1.** その秘訣は、私たちの霊です。天におられるキリストは、私たちの霊の中にもおられます。

2. 彼は天のはしごととして、私たちの霊を天に結び付け、天を私たちの霊の中へともたらしめます。**3.** 私たちは霊に戻るときはいつも、至聖所へ入ります。そこにおいて私たちは、恵みの御座におられる神と会います。

C. 私たちがイエスの血によって至聖所へ入る時はいつでも、私たちは幕の内側の恵みの御座に来て、天におられる昇天したキリストからあわれみを受け、恵みを見いだします:**ヘブル4:14** こういうわけで、私たちは、天を通って行かれた大いなる大祭司、イエス、神の御子を持っているのですから、その告白をしっかりと保持しようではありませんか。

1. 恵みの御座は、疑いもなく、神の御座であり、全宇宙に対しては権威の御座ですが、私たち信者に対しては、恵みの御座であり、イエスの血が振りかけられた至聖所の中にある罪を覆う蓋によって表徴されています。**【金】**

2. 箱のおおい、罪を覆う蓋は、恵みの御座を表徴します。罪を覆う蓋は、恵みの御座であり、そこは神が私たちと会い、私たちと語る場所です。a. ここで神は彼の民と会い、彼らと交わります。b. 私たちはキリストの血を通して恵みの御座に来るとき、神と会い、神と交わります。

ヘブル10:19 こういうわけで、兄弟たちよ、私たちはイエスの血によって、大胆に至聖所へ入ります。

c. 神は恵みの御座から語ります。そして私たちは恵みの御座で、すなわち至聖所にある託宣で、神の御声を聞き、彼の御顔を見、彼の臨在を享受し、彼のエコノミーにおいて彼と一になります。d. 私たちは恵みの御座で、御座におられる方を仰ぎ望み、彼に感謝し、彼を賛美します。

3. 恵みの御座(罪を覆う蓋の実際)は、私たちの霊の中にあります。私たちは霊に戻り、恵みの御座に来る時はいつでも、キリストの天の務めに応答します。

D. 私たちは至聖所にある恵みの御座にいるとき、主の栄光を見つめ、復活し栄光が現されたキリストのかたちへと、栄光から栄光へと造り変えられます。なぜなら、私たちはイエス・キリストの御顔にある神の栄光を見るからです。

E. 新天新地において、新エルサレムの都全体は至聖所であり、神の栄光で満たされています。神の栄光はともし火としての小羊の中で輝く光であり、私たちは神と小羊の御座を命の水の川と共に享受し、彼に仕え、彼の御顔を見て、彼の照らしの下で生き、王として支配して、永遠に至ります。**啓21:23** 都の中では、太陽も月も輝く必要がない。神の栄光がそれを照らし、小羊がそのともし火だからである。【土】

用語の説明

A. **ケルビム**:ケルビムはキリストから輝き出る神の栄光を表徴します。ですから、神がケルビムの間から彼の民に語ることは、神がキリストの栄光のただ中で私たちに語ることを意味します。

B. **罪を覆う蓋** 罪を覆う蓋は純金で作られていました。それは主イエスの人性を予表するアカシア材を含みませんでした。しかしながら、イエスの血は確かに彼の人の性質から生じました。キリストの人性は贖いのためであり、彼の神性は輝きのためです。罪を覆う蓋の上のケルビムは、キリストの神性を伴う輝きを表徴し、罪を覆う蓋の上に振りかけられた血は、贖いのための彼の人性を表徴します。ですから、ここに神としてだけでなく、また人としての、さらには神・人としてのキリストの絵があります。神として、キリストは彼の神性の中で輝きますが、人として、彼は血によって表徴される彼の人性の中で贖いを完成しました。今やキリストの神性と人性のゆえに、私たちと神は、贖い輝くキリストの中で共に集まり、共に話すことができます。これが罪を覆う蓋としてのキリスト、神と私たちが共に会う場所としてのキリストです。

1. 高い福音 第12課 信仰を通して命を得る(上)

ヨハネ3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、世の人を愛された。それは、彼の中へと信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を持つためである。

命を解き放つ死

主はご自身を一粒の麦になぞらえました。命はその種の中に化身されていました。その麦が地中に落ちて死んだ時、内側の命が解放されました。そして多くの実が産出されました。ですから神は受肉に留まらなかったのです。彼は死を経過されました。彼の命、肉体の命ですら、もはや時間と空間から解放され、聖霊の中へと解き放たれたのです。ですから彼はもはや時間と

空間とによって制限されません。彼の命は今や信じるすべての人に、制限なく分与されることができのです。キリストの十字架の死は単に罪の贖いのためだけではなく、神聖な命の解放のためです。

救いの絶頂 — 再生

救いの赦しを受けることは、私たちをアダムの墮落以前の状態に回復するにすぎません。アダムは墮落の前、ただ一人の人でした。彼の命は適切な水準にある人の命でした。神がなさろうとすることは彼のひとり子を私たちに与え、それによって私たちに永遠の命を得させることです。これが神の救いの絶頂です。もしアダムが全く罪を犯さなかったとしても、彼は依然としてひとりの人であるに過ぎませんでした。彼は神の命と何の関係も持っていないませんでした。しかし私たちがキリストの中で相続したものは、はるかに勝るものです。人の命に加えて、一つの新しい命、神からの命、神ご自身、御子そのものが加えられました。この新しい命は永遠の命です。

神の人の命に対する解決は、矯正することではありません。それは十字架につけることです。神は私たちの古い人をキリストと共に十字架に釘付けしました。古い人は終わらせられています。今や私たちはキリストと共に生きています。キリストが私たちの新しい命となりました。私たちは新しい人です。私たちは新しい開始を持っています。私たちは新しい生活を生きることができます。これらすべてはキリストの中で神が成就されたみわざです。

疑わずに、ただ受ける

ヨハネ3:16は1:12と一緒に読むべきです。3:16は、神はそのひとり子を人に賜ったと告げています。ヨハネ1:12は言います、「しかし、すべて彼を受け入れた者、すなわち、御名の中へと信じる者に、彼は神の子供たちとなる権威を与えられた」。どのようにしてこの命を得るのでしょうか？ 非常に単純です。神は与えました。そして私たちは受けるのです。それだけです。神が与えて下さったものを、疑わず恐れず、受け入れて取るだけです。あなたは単純であればあるほど一層よいのです。

C.H.ス波尔ジョン氏は有名な英国の福音伝道者でした。かつて彼は何人かの彼の学生たちに祈りについて語りました。一人の学生が、祈りが答えられたかどうかどのようにして知ることかできるでしょうか、と尋ねました。彼はポケットから金時計を取り出してテーブルの上に置きました。それから彼は学生たちに向かって、だれでも欲しい者はそれを取って良いと告げました。すべての学生たちは非常に興奮しはじめました。ある者はそんな立派な時計が、ただで与えられるとは全く信じることができませんでした。他の者たちは、「もし自分が手を伸ばしてそれを取ろうとしても、彼は金時計を引っ込めるに違いない」と考えました。他の何人かは、「彼が急に心変わりしたらどうしよう」と思いました。しばらくすると一人の少女が進み出てス波尔ジョン氏に、「私にちょうだい」と言いました。直ちに彼はその時計を彼女の小さな手に渡し、大切にするようにと言いました。他の学生たちが、今になって躊躇したことを後悔し始めた時、ス波尔ジョン氏は言いました、「私がこれをあげますと言ったとき、本気で言ったのです。なぜあなたがたは信じなかったのですか？ 神が私たちにお与えになったものは、こんな時計などよりはるかに勝って貴重なものです。彼は私たちに御子を与えて私たちの命とされるのです。神はそれほど喜んでお与えになっているのに、なぜ私たちはまだ受けることをためらうのでしょうか」。単純に信じなさい。そうすれば、あなたは永遠の命を得るでしょう。

Crucial Point①:神の心を理解し、神の共同経営者になる

OL1:人が仲間と語るように、主は顔と顔を合わせてモーセと語りました。**OL2:**神とモーセは仲間、同僚、パートナーであって、同じ仕事にかかわり、大きな事業の中で共通の権益を持ちました。**OL3:**モーセは神と親密であったので、神の心を知っている人、神の心にかなう人、神の心に触れることができる人でした。こういうわけで、モーセは満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていたのです。

「仲間」という言葉は友情の要素を含みますが、それ以上に親密なつながりの思想を含みます。仲間のヘブル語の一つの意味は共同経営者です。仲間は共同経営者です。あなたと他のだれかが共同経営者であるなら、あなたは共同の権益、共同の事業、共同の職業を持ちます。私は、アブラハムと神との間に共同の権益がなかったと言いたいのではありません。彼らは共同の権益を共有していましたが、モーセと神との間の権益ほどではありませんでした。極みまで、神とモーセは偉大な事業におけるパートナーでした。彼らは共に同じ「職業」にかかわっていました。モーセと主は親しい友であっただけでなく、共同経営者、パートナー、仲間でした。

出エジプト 32:30 から 33:23 で私たちは、神の心を知る人、また神の心にかなう人である必要があるという重大な学課を学びます。その時私たちは、モーセが持つように神の臨在を持つでしょう。モーセは満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていました。しかしイスラエルの子たちはとても制限された方法で神の臨在を持っていました。なぜなら、彼らは神の心から遠かったからです。

出エジプト 24 章で、民の大多数はシナイ山のふもとにあり、ある者たちは主から遠く離れた山の上におり、モーセは神の栄光の下で山頂にいました。主からの距離の程度に関するこの違いは、外庭、聖所、至聖所のある幕屋によって例証されることができます。山のふもとにいる民は、外庭、祭壇の周りにいました。七十人の長老たちはアロン、ナダブ、アビフ、ホルに同行し、山の上、聖所にいました。山頂のモーセは至聖所におり、そこにはシェキナの栄光がありました。後ほど、幕屋が建てられた後、大祭司は至聖所の神の栄光の中へと入ることができ、そこで民に関する神からの啓示とビジョンを受けることができました。原則は、出エジプト 24 章のモーセが山頂で、神の栄光の下で、神から戒めを受けて民に教えたのと同じです。

適用: 中高生、大学生編

モーセは神の心に触れた神の親密な仲間でした。彼は神の大きな事業の中で、共同経営者でした。あなたは主との個人的で親密な交わりを通して、自分のことを神に知らせ、また神の心に触れ、理解する人になってください。神は全宇宙の中でご自身のエコノミーを持っています。神の心の願い、エコノミーに触れ、それを理解してその中に自分も入っていき、自分をささげ、神のエコノミーの共同経営者になってください。新しい学年になり、新しい先生と一緒にクラスが一致団結してクラス運営や運動会、音楽会などを行います。あなたは先生とパートナーとなって、一致団結し前向きに先生に協力する必要があります。チームワークを学ぶ一番良い方法は、あなたが先生のパートナー、共同経営者になることです。そのような気持ちを持って学校に行き、クラスに参加してください。

神のエコノミーはあなたがバター(最も豊かな恵み)と蜂蜜(最も甘い愛)を毎朝食べ、主と共に学校に行き、キリストを学校で、理解力、知恵、忍耐力、団結力などとして経験し、キリストを表現することです。さらにあなたは集会に行き、兄弟姉妹と共に新人に福音を伝え、養い、励まします。主

日の集会で共に主を賛美して、主を団体的に表現し、神を喜ばせ、サタンを恐れさせます。まとめると、あなたにとって神のエコノミーとは、主を享受し、主を表現し、兄弟姉妹と共に建て上げられ、団体的に神を大きく表現することです。

この神の事業にあなたは共同経営者になるように招かれています。ハレルヤ！主に感謝します。あなたは目標のない学校生活ではなく、明確な目標と志を持って学校生活を送ってください。そしてあなたの学校生活で神のエコノミーが徐々に少しずつ前進できますように。また、証しのために成績を徐々に上げていくことも必要です。主と共に主を知恵として勉強すれば、必ず成績も上がっていきます。学校の勉強のことで悩みがある場合、先輩の若い兄弟姉妹に相談して、祈ってもらってください。

祈り:「おお主イエスよ、私の新学期をあなたにささげます。学校生活の中で、主を友情、理解力、知恵、忍耐力、団結力として経験し、神のエコノミーにおいて少しずつ前進できますように。あなたと共同経営者になってエコノミーを前進させることができますように。主の証しのために、成績も徐々に上げていくことができますように。アーメン！」

Crucial Point②:罪を覆う蓋の上から、ケルビムの間から、神はあなたと会い、あなたに語りかけられる

OL1:モーセは集会の天幕に入って行って神と語ったとき、証しの箱の上にある罪を覆う蓋の上から、二つのケルビムの間から、彼に語る声を聞きました。**OL2:**罪を覆う蓋は、神が恵みの中で彼の贖われた民と会い、彼らに語る場所としてのキリストを表徴します。**OL3:**罪を覆う蓋の上のケルビムは、神の栄光を表徴し、「栄光のケルビム」と呼ばれています。こういうわけで、罪を覆う蓋の上のケルビムは、キリストが神の栄光を表現することを示しているのです。

神は彼の栄光の中以外のどの場所でも、彼の贖われた民と会われません。神は他のいかなる場所、他のいかなる状態においても、私たちと会うことはできません。神が私たちと会われるときはいつも、その会うことは彼の栄光のただ中で起こらなければなりません。私たちはこれを、自分の経験から証しすることができます。私たちは神と会うときはいつも、栄光のただ中、箱の蓋の上のケルビムによって表徴されたような栄光のただ中にいると感じます。私たちは悔い改め、主イエスを信じた日に、栄光の領域へともたらされました。神は決して暗やみの中で私たちと会われません。その反対に、神は常に栄光の中で私たちと会い、栄光のケルビムの間から私たちに語られます。

私たちは、ケルビムを伴う罪を覆う蓋はキリストが輝くことを表徴するという事実的印象づけられる必要があります。それはまた、キリストの輝きとしての神の栄光が生きていることを表徴します。それは顔、目、翼を持っているものです。これの正しい理解を持つために、私たちは神からの光と、ある程度の霊的経験も必要とします。主によって照らされることがないなら、これらの節を繰り返し読んで、その意義を何も見ないかもしれません。しかし光が私たちの上で輝くとき、私たちは、ケルビムを伴う、なだめの場所が、私たちの愛する主イエスご自身にほかならないことを認識します。神が私たちと会い、私たちと語るときはいつも、この尊いキリストは私たちと共にいます。実は、この輝くキリストの中で、神は私たちと会い、私たちと語ります。

適用: 青年在職、大学院生編

あなたが主との親密な交わりの中で、神の心を理解し、神の事業の共同経営者になることを願い、自分をささげた後、自分自身を神のエコノミーの中にとどめ続けるべきです。あなたの忙しいビジネス・ライフや研究生活で、自分を神のエコノミーの中にとどめるために、最も重要なことは、神

の語りかけを聞き、また聞き続けることです。神の語りかけは罪を覆う蓋の上のケルビム(神の栄光)の間から来ます。このために、あなたは以下の三つのことを行ってください。

①毎朝復興:神のエコノミーのためにキリストを生きる生活は、今日を生きる生活です。あなたは来週から、あるいは明日からではなく、いつも今日から、今から、キリストを生きるべきです。そのために毎朝、御言葉を祈り読みし、バターと蜂蜜を食べることは極めて重要です。毎朝 5 分から 30 分を使って、御言葉を祈り読みし、主によって復興されて、新しい開始を持ってください。まだ実行していない人がいたら、ぜひ兄弟姉妹と電話や LINE で実行してください。毎朝復興の実行によってあなたは大いに祝福されるでしょう。

②主の御言葉の光によって照らされ、罪を告白する:御言葉を祈り読みしている間、あるいは御言葉を祈り読みし、会社に行ってから、主の御言葉は命の光としてあなたの内側の各部分を照らします。あなたは照らされたらすぐにそのことを主と交わり、主の血を取り、赦しを求めるべきです。

③主の血を適用した後、内住の栄光のキリストがあなたの内側で輝き、この栄光の輝きの中で神はあなたに語りかける:ケルビムは罪を覆う蓋の上にあります。あなたの罪の告白の後、ケルビム、栄光のキリストがあなたの内側で輝きます。その後、この栄光の中で神はあなたに語りかけます。福音開展における兄弟の証し:福音開展の前の 30 分間の祈り読みにおいて、内側で自分たちが数名、既にバプテスマしたことで慢心しないように、ひざまずいて、罪を告白し、祈る必要があると感じました。その感覚に従い、すぐに兄弟姉妹と共にひざまずいて祈り、罪を告白しました。このような祈りと罪の告白によって、ある姉妹は神の新鮮な語りかけを受けました。主は彼女に、「あなた自身は何の役にも立たないので、自分に頼るのではなく、主に頼り、聖霊で満たされるべきである」と語りかけられました。そして彼女は復興され、体の疲れや心の重荷が取り除かれました。結局、その日 3 人の平安の子である若者(日本人 2 人、中国人 1 人)に出会い、バプテスマしましたが、この姉妹を通して 2 人がバプテスマされました。私たちは互いに肢体であるので、私の内側の命の感覚を通し、自分だけでなく、からだの他の肢体が生かされました。祈り:「主よ、あなたご自身が罪を覆う蓋、なだめの場所です。私はまず、自分の内側の照らしに従って、罪を告白します。私の罪を赦してください。イエスの血によって良心を清めてください。キリストをなだめの場所とします。主よ、あなたなしに、神が私に会うことができ、あるいは私が神と会うことができる場所はありません。主よ、なだめの場所としてのあなたなしに、神は私と会うことはできず、あるいは栄光の中で私と語ることはできません。主よ、ケルビムの間から私に語りかけてください。私はあなたの新鮮な語りかけと導きが必要です！」

Crucial Point③:イエスの血によって、大胆に至聖所へ入る

OL1:至聖所にある箱の上の罪を覆う蓋は、ヘブル 4:16 の恵みの御座と等しいです。**OL2:**私たちはキリストにある信者として、「イエスの血によって、大胆に至聖所へ入ります」。

OL3:今日、至聖所は主イエスがおられる天にあります。しかし、私たちはなおも地上にいますが、至聖所へ入ることができます。その秘訣は、私たちの霊です。天におられるキリストは、私たちの霊の中にもおられます。彼は天のはしごととして、私たちの霊を天に結び付け、天を私たちの霊の中へともたらしめます。

ヘブル10:19は、「私たちはイエスの血によって、大胆に至聖所に入ります」と言います。至聖所へ入ることは、大きな事柄です。なぜなら、そこには神が恵みの御座に座しておられるからです。そのような場所へ入るために、私たちは大胆でな

ればなりません。私たちが大胆であることができるのは、キリストの死と彼の血によります。私たちは一年に一度しかその中に入ることができない旧約の大祭司たちとは違い、いつでもイエスの血によって、大胆に至聖所へ入ることができます。

今日、至聖所は主イエスがおられる天にあります。しかし、私たちはなおも地上にいますが、至聖所へ入ることができます。ヘブル 4:12 で述べられているように、その秘訣は私たちの霊です。天におられるキリストは、私たちの霊の中にもおられます。彼は天のはしごととして、私たちの霊を天に結び付け、天を私たちの霊の中へともたらしめます。私たちは霊に戻るときはいつも、至聖所へ入ります。そこにおいて私たちは、恵みの御座におられる神と会います。私たちはイエスの血によって、また新しい生きた道によって、至聖所へ入るとき、幕の内側の恵みの御座に来て、天におられる昇天したキリストからあわれみを受け、恵みを見いだします。ヘブル 4:16 は、「**私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを得るために、大胆に、恵みの御座に進み出よう**」と言います。恵みの御座は、疑いもなく、天にある神の御座です。神の御座は、全宇宙に対しては権威の御座であって、神はその上に座して宇宙を管理、支配しておられます。それは神の統治の御座です。しかし、私たち信者に対しては、恵みの御座です。恵みの御座は、キリストの血が振りかけられた至聖所の中にある契約の箱の上にある罪を覆う蓋(あわれみの座)によって表徴されています。ここにおいて神は彼の民と会って交わります。私たちはキリストの血を通して恵みの御座へ来るとき、神と会い、交わります。

聖書によれば、私たちはどこで神の御声を聞くのでしょうか? 恵みの御座、至聖所の託宣においてです。もしあなたがまだ十字架の周りにいるなら、神の語りかけを聞くことは難しいでしょう。しかしあなたが恵みの御座、なだめのおおいに来る時はいつでも、直ちに神聖な御声を聞くでしょう。あなたは託宣の中、神の御座にいますので、神の御声を聞くでしょう。私たちはここで、神の語りかけを聞き、神の御顔を見、神の臨在を享受します。私たちはここで、神のエコノミーの中で神と一になります。

適用:結婚生活編

あなたは結婚生活、ビジネス・ライフ、召会生活のすべての時に、自分の霊を活用し、霊があなたの三部分(霊、魂、体)の中で一番強い部分になる必要があります。主の御名を呼び、霊をかき立て、積極的に霊を活用してください。その後あなたは思いを霊につけて、霊の感覚を解釈し、理解する必要があります。あなたの結婚生活が祝福されるために、家庭に至聖所を持つべきです。その秘訣は霊を活用し、思いを霊に付けることです。全宇宙で最大で唯一の祝福は、三一の神ご自身です。あなたの結婚生活や子供たちが祝福されるために、至聖所を、神の臨在を、神の語りかけをあなたの家にもたらしめてください。

祈り:「おお主イエスよ、罪を告白し、イエスの血を適用し、霊を活用して、大胆に至聖所に入ります。神の臨在、神の新鮮な語りかけを私の家にもたらしめてください。アーメン！」

477 励まし — 主と交わる

1. 主にまみえて、主とかり、主のなか住み、主を食べる主待ちのぞみ、主にふくし、すべてわすれ、主、もとめる
2. 主にまみえて、世をわすれ、主とひそかなとき過ごす主をあおぎ見、変えられて、わがこう動で主、あらわす
3. 主にまみえて、みちびかれ、すべてに主のさき行かず苦らくあるも、主にしたが、みことば信じ、主をあおぐ
4. 主にまみえて、平あんで得る感じよう、おもい、管理される愛のいずみにみちびかれ、天のみわざをまこする